特集

私たちのまち ヒロシマから「伝える」ことの意味

市は、被爆の実相を後世に伝えるため、さまざまな取り組みを行っています。「伝える」ことの意味やその大切さを、あらためて考えてみませんか。
問各事業の担当課は下記

今だからこそ、被爆者の体験談を聞いてほしい

被爆から今年で77年。市内に在住の被爆者は年々減少し続け、体験者の生の声を「伝える」ことが難しくなっています。そのため、市は、被爆者自らが出演、証言するビデオの作成に取り組んでいます。核兵器の使用が危ぶまれ世界の平和が脅かされている今、あらためて被爆者の体験を紹介します。

平和記念資料館平和データベース「被爆者証言ビデオ」より

梶本淑子（かじもとよしこ）さん
被爆当時14歳
2019年8月23日収録

ナレーター：安田高等女学校3年生だった梶本さんは、爆心地からおよそ2.3キロ離れた三篠本町にある動員先の工場で被爆しました。当時、厳しい作業環境の中でもお国のためと一生懸命に作業に勤めていました。8月6日の朝も、工場でいつもの作業をしていましたが、突然の閃光（せんこう）とともに工場が倒壊し、自身も吹き飛ばされ気を失ってしまい、傷の痛みで生きていると実感したそうです。

その後、同じ場所で被爆した友人と共に必死で工場からはい出ましたが、そこで見た光景は、広島の街がなくなり、太陽もなく、怖いほど静かであったといいます。平和のための戦争などありえない、普通の暮らしができることこそ平和であると、当時を振り返りながら語ります。

――被爆の惨状

私が一番忘れられないなと思う男の子、中学生の男の子がやってきたんですけど、もう全身焼かれて、目の前に来た時にふっと気が付いたら、片方の腕がちぎれてないんです。腕がないと思ったら、それを片方で抱いていたんですね。で、目の前で死んでいくんですけど、その時の、あの男の子の顔は本当に怖い、悲しそうな顔をして死んでいったんです。

――戦後の生活

戦後はもう本当に耐えられないような10年を迎えるのですが、終戦の時はまだ父がおりましたから、4年生は普通に行ったんです。5年生になる時、昭和22年1月に父が血を吐いて1週間で亡くなったんです。食べ物ないんですから、父が死んだ時は栄養失調で結核だと思ったんです。今考えれば、原爆症といいますけれども、当時はそんな言葉なんてないし。

もうこれで学校は行けないなと思ったんですけど、学校の先生に、母が「3人の弟がおりますので、これを大きゅうしてもらわにゃいけんのんじゃけ、この子が働いてくれにゃいけんのですけぇ」って断った時に、なんで、これだけ学校に行きたいというのは知っとるくせに、なんでと。でも先生が帰られたら、母が泣いていたんです。その姿を見た時にやっぱり、学校へ行かせたい気持ちがあるのに、行かせてあげられない、母自身が病気になっているという辛さが分かった。私は本当は先生になりたかった。

それから10年働きました。母の入院費を稼がないといけない、3人の弟を育てないといけない、もう夢中でした。何がしんどいかって食べ物がない。食べ盛りの弟に食べさせるものがないんです。明日じゃない、今晩の食べ物がない、という。本当に大変でした。

――平和への願い

戦争なんて絶対してほしくない、というのが一番の願いです。きれいな美しい言葉で惑わされないように。本当にね、あの頃に平和になるための戦争といわれて信じたけど、あるわけないんですよね。

みんなで知恵を出して、戦争を避けるようにしたいですよね。平和っていうのはね、難しい言葉じゃなくて、普通の生活が送れることが平和なんです。この広島がどうなっていたと思いますか。街がない、家がない、お父さんもお母さんもいない、食べ物がない、学校がない、なんにもないんです。なんにもなくなるのが戦争なんです。

ここに紹介した梶本さんの体験談は、証言ビデオの一部です。学徒動員先での作業や8月6日に体験したこと、避難し、父親と再会したことなどを、証言ビデオで語っています。
視聴はこちらから▶

平和記念資料館の平和データベースでは、梶本さんのほかにも多くの証言ビデオを視聴できます（詳しくは下記）。

被爆者一人一人のことを知ってください。自分と同じ生身の人間がどんなふうに生きてきたのか、亡くなった人はどんなふうに亡くなってしまったのか、具体的な話を聞くことで、きっと感じることがあるはずです。
視聴はこちらから▶

戦争・原爆は多くの命を奪い、生き残った人も苦しみや悲しみが一生続きます。体験した人たちはそのことを懸命に伝えてきました。そのメッセージを同じまちに住む私たちが受け取り、伝え続けることが大切なのではないでしょうか。

平和記念資料館・土肥幸美（どひゆきみ）学芸員

市が実施している「伝える」取り組み

被爆者証言ビデオ

被爆体験の継承に活用することを目的に、被爆体験者の証言をビデオに収めています。昭和61年度から始めたこの取り組みは、今年で37年目。総本数は1,293本になりました。出演者は直接被爆者や入市被爆者で、在韓被爆者や、聴覚障害のある被爆者の手話による証言ビデオもあります。

「自分が伝えなければ」という使命感で話す人や、これまで話したくても話す機会がなかった人、収録後に「胸のつかえが取れた」という人も。インタビュアーが丁寧に話を聞いて構成し、1人約20分程度の映像にまとめられています。完成したビデオは平和記念資料館のホームページで公開しています。

平和記念資料館 検索

トップページ下部の「平和データベース」のバナーをクリック、カテゴリの中から「被爆者証言ビデオ」を選択

ここがポイント 被爆当時の様子や心情、戦後の暮らしを語る姿から、「もう誰にもこんな体験をしてほしくない」という強い思いが伝わります。

◆被爆者証言ビデオの出演者募集

被爆体験を後世に伝えるため、被爆者証言ビデオへの出演者を募集します。
【対象】県内に在住で、広島での被爆体験（入市被爆を含む）があり、初めてこのビデオに出演する人
【募集期間】随時
【申し込み】所定の応募用紙を平和記念資料館学芸課へ。応募用紙は同館、同館ホームページで。郵送希望者は下記へ連絡を
問平和記念資料館学芸課（☎241-4004、FAX542-7941）

被爆体験証言者・被爆体験伝承者・家族伝承者

高齢化により被爆体験を直接語り継げる人が減少している中で、自らの被爆体験や平和への思いを伝える「被爆体験証言者」や、被爆者の体験や思いを本人に代わって伝える「被爆体験伝承者」を養成しています。令和4年4月時点で、証言者26人、伝承者169人が研修（右記）を修了。

令和4年度からは新たに、被爆者の家族がその被爆体験などを伝承する「家族伝承者」の養成も始めました。

ここがポイント 証言者、伝承者のどちらも「被爆体験を後世に伝えたい」という熱意を持って活動しています。講話を聞く人は、語り手の生の声や息遣いを感じながら、語られる話に引き込まれます。

ここがポイント 伝承者の講話内容は、被爆者が原稿を確認したものに限っています。被爆体験などが正確に受け継がれるよう、被爆者本人が納得できるものにしています。

◆養成研修

被爆体験証言者は約1年間、被爆体験伝承者・家族伝承者は約2年間かけて以下の研修を行います。
【例】被爆体験伝承者の場合
・被爆の実相の学習や話法技術の習得などの講義、被爆体験講話の聴講、被爆体験証言者との交流会
・どなたの被爆体験を伝承するか、意向調査の結果を踏まえマッチング
・証言者ごとのグループに分かれ、被爆体験などを伝授するミーティング（月に1～2回程度）
・講話原稿の作成、講話実習

◆研修修了後

平和文化センターから委嘱を受け、平和記念資料館などで講話を行います。対象は修学旅行生や海外からの訪問者などです。

同事業は、例年5月頃に募集しています。
詳しくは 市HP ページ番号 10164
問平和推進課（☎242-7831、FAX242-7452）

中学生による「伝える HIROSHIMA（ヒロシマ） プロジェクト」

市内の中学校2・3年生の中から選ばれたメッセージ発信者（メッセンジャー）が、8月5日、6日に広島を訪れる各国駐日大使や海外の人々に、英語で平和メッセージを伝えています。

ここがポイント メッセンジャーは、発信当日に向けて事前研修（全4回）を行い、平和への意識を高めます。また、研修を通じて英語による平和メッセージの完成度を高めていきます。

◆平和メッセージの内容

・平和のために自分ができること
・平和への願いや希望
・平和の実現を世界の人々に広く呼び掛けるもの

◆事前研修

・被爆体験伝承講話
・グループ演習
・平和記念資料館の見学
・平和記念公園を訪れた人へのインタビュー
・留学生との交流
・メッセージ発信のリハーサル など

◆今年度のスケジュール

・8月5日㈮：翌日の平和記念式典へ参列するために平和記念公園を訪れた駐日大使に、一人一人が思いを込めたメッセージを英語で伝えます
・8月6日㈯：国際会議場で開催される「ひろしま子ども平和の集い」や、平和記念公園を訪れた国内外の人々へメッセージを発信します

駐日大使にメッセージを伝えている様子（平成31年度）

平和記念公園を訪れた海外の人々へ伝えている様子（平成29年度）

詳しくは 市HP ページ番号 17162
問教育委員会指導第二課（☎504-2487、FAX504-2142）

平和関連の行事

「平和」を考える機会となる、さまざまな催しがあります。下記のほかにも、7月下旬から8月に開催されるものを本紙8月1日号や市ホームページで紹介します。 市HP ページ番号 13154

■平和学習講座

原爆被害の概要や世界の核兵器の現状などを、講師が映像や模型を使って分かりやすく説明します。
日7月30日㈯、31日㈰の13:00～14:00、14:30～15:30
場平和記念資料館
申当日会場で。先着各156人

模型を使って原爆の仕組みを説明

問同館啓発課（☎242-7828、FAX247-2464）

■ヒロシマ平和の灯（ともしび）のつどい

日7月31日㈰①17:30～18:30、②19:00～20:00
※②のみ大雨の場合は中止
場①平和記念資料館、②平和記念公園原爆死没者慰霊碑前
内①被爆者から被爆体験を聞き、平和について考える、②「平和の灯」から点火したロウソクを手に原爆犠牲者の霊を慰め、核兵器廃絶を祈る

令和3年度の行進の様子

申①②当日会場で。①先着100人
問男女共同参画課（☎504-2108、FAX504-2609）

■被爆体験伝承講話

被爆体験伝承者が、被爆者から受け継いだ被爆体験や平和への思いを伝えます。下記期間中は定時講話※（下記①②）に加え、1日2回（同③④）追加開催します。
日8月1日㈪～3日㈬、6日㈯～10日㈬の①10:00～11:00、②11:45～12:45、③13:00～14:00、④14:30～15:30
※定時講話①②は毎日開催。8月11日㈷～15日㈪は②12:00～13:00

語り継ぐヒロシマの原点

場平和記念資料館
申①～④当日会場で。先着①②各16人、③④各50～156人（会場により異なる）
問同館啓発課（☎242-7828、FAX247-2464）

■開館20周年記念特別展示「家族の肖像-引き裂かれた絆-」

原爆で亡くなった人の名前や遺影を登録・公開している国立広島原爆死没者追悼平和祈念館。故人の遺影とともに寄せられた家族写真の中から、被爆前に撮影されたもの約200枚を選び、円周約55メートルの平和祈念・死没者追悼空間に展示します。
日8月1日㈪～31日㈬8:30～19:00

昭和16年に撮影された今岡家の家族写真（田頭豊氏提供）

※5日は20:00まで、6日は9:00～20:00 場同館
問☎543-6271、FAX543-6273

■「平和の夕べ」コンサート

日8月5日㈮18:45～20:45
場広島文化学園HBGホール
内マーラー作曲：交響曲第3番ニ短調 【指揮】クリスティアン・アルミンク 【メゾ・ソプラノ】藤村実穂子 【合唱】東京混声合唱団、エリザベト音楽大学合唱団、ひろしまオペラルネッサンス合唱団、NHK広島児童合唱団 【演奏】広島交響楽団 ¥S席5,000円、A席4,000円など。チケットは同楽団などで。詳しくはお問い合わせを

令和3年度のコンサートの様子

問同楽団（☎532-3080、FAX532-3081）